教育センター通信

第７号(通算１１２号)
令和５年１１月２２日
三条市教育委員会
教育センター発行

ほど
火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育
トップページ☞

11月６日（月）三条嵐南学園
「いじめ見逃しゼロスクール集会」

ポジティブ・フォーカスによる「勇気づけ」の言葉がけを！

学校教育課　指導主事　外山　良史

文部科学省の「令和４年度　児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、全国の小・中学校の不登校児童生徒数、いじめの認知件数が過去最多となっています。

鳴門教育大学の久我直人教授は、「いじめや不登校等の問題は、子どもの『内面（自分への不信）』に起因しており、自分を大切に思えない不安を感じると、その不安を不満に変え、イライラを他者に向ける問題行動タイプと、不安から孤立化する内向的な教育相談タイプに分かれる。いじめ対策、不登校対策は『自分への信頼回復』なしには、根本的な解決はなし得ない。」としています。そして、できないことを指摘して改善を促そうとする思考を、その子のよさや努力、優しさを見付け出そうとする見方（ポジティブ・フォーカス）に転換し、本来もてる能力や優しさを引き出し、回復を促すために、その子のよさを受け止め、価値付ける「受容や共感」「承認や賞賛」の言葉がけを意図的に行い、全職員で全児童生徒を対象に、勇気づけていくことが効果的だとしています。

子どものよさを学級目標を活用して価値付ける方法が考えられます。「助け合うクラス」が目標であれば、「助け合う」子どもたちの姿を、「『大丈夫？』と声をかける」等、教師が具体的にイメージします。Ａさんが「大丈夫？」と声をかけた時、すぐに「Ａさんが『大丈夫？』と声かけしていました。『助け合う』にぴったりな言葉ですね。うれしいですね。」とフィードバックします。すると、同様に行動する子が出てきます。さらに、「先生、ＢさんがＣさんに『大丈夫？』と声をかけていたよ。」と教えてくる子も出てきます。その時は「Ｂさんすごいね。」だけでなく、「あなたもＢさんのすごいところを見付けてすごいね。友達のすごいところを見付けられるって助け合うために大事だね。ありがとう。」と声をかけます。このように、目標に向かう子どもたちのよいところを可視化し、価値付けていくことができると考えます。目標に向かう行動のフィードバックによる価値付けは、学校生活の様々な場面で（授業中でも）可能です。

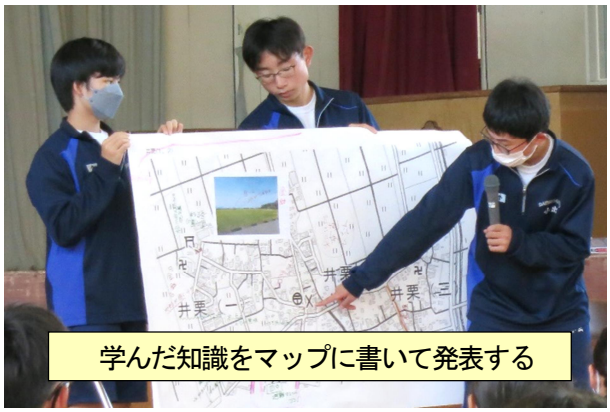
全児童生徒を対象に、全職員でポジティブ・フォーカスによる「勇気づけ」の言葉かけをお願いします。

参考文献：久我直人「子どもの幸せを生み出す　潤いのある学級・学校づくりの理論と実践」ふくろう出版

学園紹介（四つ葉学園）

10 月 18 日(水)に「防災さんぽ」を実施しました。総勢 40 人を超える地元の防災案内人の説明を受けながら、小・中学生が 37 のグループに分かれ、実際に地域を歩いて水害の歴史や危険箇所を確認しました。帰校後は、発見した危険箇所や避難のポイントをマップに書き込んで学びを深めました。事後の振り返りでは、ほぼ 100%の児童生徒から肯定的評価を得ました。また「避難時は学校を目指すことになるが、道路や河川の状態を確認することが必要だ」と発表するなど、学びを生かす姿が見られました。他の学園の参加者からは「地域の惜しみない協力に驚いた」との声が複数聞かれました。地域を巻き込んだ学園・学校づくりに今後も力を注いでいきます。

実際の水害の様子を防災案内人から聞く


学んだ知識をマップに書いて発表する

学園紹介（三条おおじま学園）

11 月２日(木)、大島中学校で「小６体験入学」を実施し、授業見学、中学生からの合唱披露、部活動体験が行われました。授業見学では、小学生が参加する場面があり、部活動体験では、中学生が小学生に丁寧に指導する姿が多く見られました。小学生からは、「教えてくれるとき、優しく分かりやすく教えてもらって良かった」「合唱のハモリがすごくきれいだった」「部活動体験で、“ナイス” などの声を掛けてもらえてうれしかった」などがありました。

１月 30 日(火)の入学説明会では、小６、中１、中２での交流活動を予定しています。

授業に参加（11 月２日・大島中）

部活動体験（11 月２日・大島中）

ICT 教育研修会②　　11 月 10 日（金）開催

◆はじめに

本研修では、１人１台タブレット PC 端末を活用した授業実践の具体事例に触れ、ICT 教育について知見を深めることをねらいとし、各学校からオンライン方式（Zoom）で参加いただきました。昨今、関連書籍やインターネット検索などから具体事例について容易に調べられるようにはなりましたが、なぜその実践にたどり着いたのか、それによって得られた知見は何かなど、詳細を知るに至らないこともあります。その意味で、本研修を通じ、日々共通の課題をもつ者同士が対話し、実践を省察する機会を設定できたことは、有意義な時間になったのではないかと振り返ります。

以下に、代表校の事例紹介概要と参加者の受講後アンケート（一部抜粋）を紹介します。

◆代表校からの事例紹介　～飯田小学校星野教諭の実践～

「タイピングはエンジン」「特に重要なスキルは共有」「ICT 活用の大前提は、信じて任せる」など、分かりやすく力強い言葉が印象に残っています。紹介されたアプリ及びその使用方法や活動場面について、主たるものを以下に整理します。

使用アプリ	使用方法や活動場面
Google ドキュメント Padlet	・説明文を読み、Google ドキュメントを使用して 120 字以内で要約。 ➢文字数のカウントや修正が容易に。 ・上記をスクリーンショットし、Padlet に投稿。 ➢相互参照し、自ら課題を見つける学習サイクルを形成。
Kahoot!	・Kahoot!を用いた都道府県クイズを４月から継続中。 ➢『三条市授業スタンダード』スタートラーニングに位置付けやすい。 知識技能定着などの反復する必要がある学習との相性のよさ。
Canva	・教科の調べ学習でのポスター作成、係活動の新聞や学習発表会の成果物で使用。 ➢デザイン性と直感性に優れ、思考表現に適している。相互参照、協同編集が可能。 ・収集した情報はノートに書き残し、Canva で整理するなどの工夫した活用。 ➢デジタルとアナログを意図的に切り替えるなど、集中力の持続への配慮も。

いずれの使用方法も汎用性があり、受講者の実践意欲が喚起されたことと思います。また、各校における ICT 教育実践を共有する中で、「１年前より確実に実践が進んでいる」という感想もあり、手応えを感じる時間となりました。

◆受講後アンケートより（一部抜粋）

今まで、ICT は「教師が児童生徒に使わせるもの」という認識でした。「担任が変わっても子どもたちに教えたことは残る」という話を聞き、子どもたちが「こんな使い方もある」「こんなときはタブレットを使いましょう」と言ってくるような、ICT を主体的に使う姿を目指し、指導していきたいと思いました。

◆おわりに

研修で用いた資料は『三条市 ICT 教育ポータルサイト』内、トップページにて閲覧することができます。また、各学校の実践記録を２分程度の動画にまとめた資料もアップしています。なお、実践記録は、小林 ICT 教育推進講師から Canva の動画作成機能を使って作成していただきました。

長期休業中など、比較的時間にゆとりのある時期に御覧いただき、授業づくりの参考にしていただけると幸いです。

科学教育推進事業（科学・模型工作教室）

三条市科学教育推進事業は、子どもに科学する心を育むことをねらいとして「子どもの科学教室」、「わくわく科学フェスティバル」、「科学ゼミナール」、「科学・模型工作教室」の四つの事業を行っています。

ここでは、その中から科学・模型工作教室を紹介します。

この教室は、年６回開催します。市内小・義務教育学校５、６年生から、６回すべてに参加する児童を募ります。今年度は、６月 24 日にスタートし、12 月 16 日が最終第６回です。参加登録者は、５年生 18 人、６年生 14 人の 32 人です。

また、市内小・中・義務教育学校の先生方に、児童の活動支援をお願いしており、計 54 人の先生方が支援者として登録してくださいました。

さらに、はんだ付けが必要な製作では、県立新潟県央工業高等学校の機械工作部の生徒さんにお手伝いをお願いしています。今年度は、６月、９月、11 月の教室に、計 13 人の生徒さんが協力してくれました。

科学･模型工作教室の様子

第４回は、ボイスレコーダーモジュール（30 秒の録音ができるキット）を、軍手やぬいぐるみに入れたり、コップや箱に入れて、周りをデコレーションしたりする、「おしゃべりマスコット作り」に取り組みました。児童は、友達と遊ぶ、家族と遊ぶ、メッセージ付きの贈り物にするなど、遊び方を考えながら、製作に熱中していました。

「自然の国をイメージして工作した。綿を使って雲をイメージした。ラップとアルミホイル、色ペンで川を作ったのでとても頑張った。」、「外形をつくるために折紙で同じものを 30 個作るのが大変だったが、完成したら充実感があった。」などが児童の感想です。参加児童全員が、イメージを形にしようと試行錯誤をして、自分なりの「おしゃべりマスコット」を完成させました。多くの先生方によるきめ細やかな支援が、より充実した活動につながっています。

おしゃべりマスコットの作品例